

中 学 校 外 国 語

1 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じ、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

2 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) (知識及び技能)

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

(2) (思考力・判断力・表現力等)

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

(3) (学びに向かう力・人間性)

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 改訂の要点

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、資質・能力を一体的に育成する。

(1) 聞くこと

- ① はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
- ② はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
- ③ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

- ① 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- ② 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ③ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

(3) 話すこと〔やり取り〕

- ① 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
- ② 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
- ③ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

(4) 話すこと〔発表〕

- ① 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
- ② 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
- ③ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

(5) 書くこと

- ① 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
- ② 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
- ③ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

- (6) 実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)及び次に示す言語材料のうち、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

- ① 語, 連語及び慣用表現
小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語
- ② 文構造
 - ・ 主語＋動詞＋間接目的語＋that で始まる節, whatで始まる節
(例) I'll show you that this is not true. Can I tell her where you live ?
 - ・ 主語＋動詞＋目的語＋原型不定詞 (例) Will me let me try ?
 - ・ 主語＋be動詞＋形容詞＋that で始まる節(例) I'm glad that you like it.
- ③ 文法事項
 - ・ 接続詞 重文を作るもの and, but, or 文と文を対等につなげる。
複文を作るもの that, if, when, because, as, than
 - ・ 助動詞 can, must, must not, may, should など
 - ・ 前置詞 定型句で導入 (例) I'm from Japan. など
 - ・ 仮定法のうち基本的なもの (例) I wish I knew my cat's feelings.

5 指導計画の作成と内容の取扱い

指導計画の作成に当たっては、小学校や高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
- (2) 学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。
- (3) 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。
- (4) 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。
- (5) 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
- (6) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (7) 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。
- (8) 言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。
- (9) 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。
- (10) 文字指導に当たっては、生徒の学習負担にも配慮しながら筆記体を指導することもできることに留意すること。
- (11) 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとめて整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。
- (12) 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
- (13) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。
- (14) 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。

6 評価

観点に基づき、評価すること。

7 先行実施期間中における留意事項

- (1) 小・高等学校との接続の観点から、新たな追加した内容と、それを活用して行う言語活動を計画的に指導する。
- (2) 新学習指導要領の目標と照らし合わせ、各校の「Can-Do リスト」の見直しを行う。

